2022 年 11 月 3 日　　No. 86第 1 号

日 本 経 営 倫 理 学 会 会 報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS

第 30 回記念研究発表大会開催報告

潜道　文子（拓殖大学副学長・教授）

日本経営倫理学会第 30 回目の記念研究発表大会は、2022 年 7 月 30 日（土）～31 日（日）の日程で、拓殖大学文京キャンパス E 館 6 階の教室にて研究発表が、E 館 1 階 後藤新平・新渡戸稲造記念講堂にて統一論題シンポジウムが開催された。なお、2 年間、対面での大会が行われていなかったことから、「今年度は記念大会ということもあり、是非、対面で」という声も多く、対面での実施を企画した。しかし、時期的に感染者数が増加していたこともあり、最終的にはオンラインも導入し、ハイブリッド方式での大会となった。参加者は全体で 118 名であり、そのうち約 80 名の方々に対面でのご参加をいただいた。

第 1 日目の午前中と第 2 日目は、3 つの会場に分かれて研究発表が行われ、第 1 日目の午後はシンポジウムが行われたが、それに先駆けて、水谷賞の表彰式が開催された（詳細は、「水谷賞」の記事参照）。シンポジウムについては、今回は上述のように第 30 回目の記念大会ということで、日本における経営倫理の 30 年の歴史を辿ることを目的とし、統一論題に『経営倫理 30 年の歴史と展望―グローバル時代の倫理と実践―』を掲げた。研究者のお 2 人、そして経営倫理分野で先進的な活動をされている 2 つの企業のご担当者の方々の、計 4 名の方々によるご講演が行われた。ご講演の要旨は以下の通りである（ご講演者の方々にご執筆いただきました）。

当日のシンポジウムの様子

● <ご講演要旨>

「経営倫理 30 年の歴史と展望」

高　巌氏

明治大学経営学部　特任教授

本報告では、「経営倫理」という学問・実践分野が「持続可能な社会の発展」にどのように貢献してきたかを 4 つの視点より概観した。第 1 はステークホルダーの視点。これは時代に応じて、企業が意識する「ステークホルダー」が明確に変化してきたからである。第 2 は規制環境。第 3 は経営倫理上の課題。意識するステークホルダーが変化し、遵守・注意すべき規制環境が複雑化する中で、企業が力を入れるべき経営課題も変遷してきたからである。最後は社会的な問題事象。以上、4 つの視点で過去 30 年を整理し、経営倫理が果たした学問的・実践的な貢献を確認した。これを踏まえ、最後に、次の 30 年に向かって、経営倫理がより強く意識して取り組むべき課題を 4 つ挙げた（気候変動・人権・労働・腐敗、ESG 開示、コーポレートガバナンス、デジタル化）。詳細については、日本経営倫理学会編『30 周年記念誌』掲載予定の「経営倫理とは何か」を参照されたい。

「経営倫理学の時代：通奏低音としての規範倫理学」

梅津　光弘氏

慶應義塾大学商学部　教授

ヘロドトスからヘーゲルに至る歴史哲学の知見を一言で要約するなら「一寸先は闇」という言葉に尽きるのだそうだ。我が国における経営倫理学および経営倫理学会の歴史は未だ 30 年ほどだが、振り返れば様々な時代の世相や事件が思い返される。それは企業不祥事の連鎖であったり、それに伴う世論の興隆であったり、さらには法や制度の新設などであるが、概ねこれらの現象は経営倫理学の意義や役割を積極的に評価し、私たちの研究を追い風として支える役割を果たしてきたと言えるだろう。また昨今は CSR，SDGs，ESG などの言葉が連日のようにメディアに登場し、企業の持続可能なあり方、真の働きがいとは何かといった経営倫理学が本来的に問い直すべき課題も注目される様になってきた。本学会に対する批判や懐疑も未だに消えないが、この 30 年間、経営倫理学にとっては誠に良い時代であり、経営倫理学会は「時代の寵児」であったといっても過言ではあるまい。

ただしこうした状況が永続するかと言えば、そうでもない。2022 年はロシアによるウクライナ侵攻の年として歴史に刻まれることになるだろうが、これからの数十年はマキャベリズムの時代に逆戻りしそうな様相である。こうした時代精神は経済至上主義よりも厄介な倫理学にとっての逆風である。

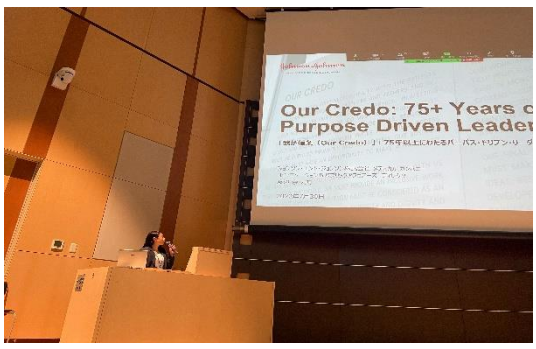
経営倫理学のより中長期の進展を考えるなら、こうした時代の趨勢を無視するわけにはいかない。と同時に学問としての経営倫理学はそうした時代の浮き沈みを超越した姿勢を貫く必要もある。それはバロック音楽における通奏低音の様に、主旋律の派手な動きとは独立に、社会や歴史の一番基礎となる基層を支える役割を担うことになるのだと思う。

「『我が信条（Our Credo）』：75 年以上にわたるパーパス・ドリブン・リーダーシップ」

渡辺　奈々美氏

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社　メディカル　カンパニーコミュニケーション＆パブリックアフェアーズ　ディレクター

ジョンソン・エンド・ジョンソンは、創業当時から、人に寄り添い、ヘルスケアを進化させるイノベーションを続けてきました。今では世界最大級のヘルスケアカンパニーとして、消費者向け健康関連製品、医薬品、医療機器（メドテック）の領域で事業を行い、人々のヘルス＆ウェルビーイングに貢献しています。私たちはヘルスケア製品を作るだけでなく、公衆衛生やヘルスケアシステム全体への貢献をはじめ、世の中に対して果たすべきより大きな役割、使命、責任があると考えています。1943 年に起草された企業理念であり、社員の共通の価値観である「我が信条（Our Credo）」では、顧客、社員、地域社会、株主という 4 つのステークホルダーに対して果たすべき責任を示しています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、パーパスドリブンの ESG 経営のパイオニアとして、今後も「我が信条」を常に“羅針盤”とし、人を第一に考え、ヘルスケアの未来を形作ることを目指していきます。



渡邊様によるご講演

「Kirei Lifestyle Plan 花王の ESG 戦略と具体的取組」

畑中　晴雄氏

花王株式会社　ESG 部門　ESG 戦略部　ESG 戦略スペシャリスト

花王の ESG 視点での取組を紹介する。花王は約 130 年前に創業し、企業理念、Kao Way に基づいて活動を進めている。2009 年に環境宣言を行い、環境を経営の根幹にすえて、ライフサイクル全体で環境負荷低減すべく、取り組んできた。

2018 年には、長期的な企業価値向上のために ESG 活動を強化、そのため、攻めの ESG、グローバルな取組、花王らしい活動の 3 つを重視することを公開した。取締役会のもとに ESG 委員会を設置、ESG 推進会議とともに ESG の取組を強力に推進。また外部諮問機関として、ESG 外部アドバイザリーボードも設置した。

2019 年には生活者視点の ESG 戦略 Kirei Lifestyle Plan を公開し、ビジョンを目指して、3 つのピラー・コミットメント、19 のアクション、KPI を策定し、取り組んでいる。2025 年の中期経営計画のビジョンも Sustainability as the only path としている。2022 年には、活動を加速すべく、注力する 4 つの課題について ESG ステアリングコミッティを設置した。

具体的な事例としては、脱炭素、ごみゼロ、責任ある原材料調達、人材開発、情報公開の取組を紹介した。今後も、経営、事業と一体となって ESG の取組をさらに進めていく。

畑中様によるご講演

∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽

本シンポジウムでは、上記のご講演に続いて、ご講演者の方々にご参加いただき、高浦康有常任理事（東北大学大学院経済学研究科准教授）をモデレーターとするパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションは、参加者の方々からの質問に基づき 1 時間ほど行われたが、質問も全てに対応できないほど数多くいただき、とても活発な意見交換が行われた。

なお、本シンポジウムにおける企業のご講演者の方々への依頼に際しては、小方信幸副会長および高橋浩夫元会長に大変お世話になりました。ここに感謝の意を表します。

また、今回は、引き続きコロナ禍ということで通常の懇親会を行うことはできなかったが、シンポジウム終了後、短時間の交流会（名刺交換会）が開催された。

● ＜研究発表＞

研究発表は、3 つの会場で行われ、第 1 日目に 12 件、第 2 日目に 17 件の、計 29 件の意欲的な報告が行われた。今回の報告内容の特徴として、多様なデータの収集方法やその分析方法が紹介され、また、テーマ的に多岐にわたり、かつ新しいものが多くみられた。

司会の方々のご協力もあり、オンライン参加者の方々も含め、質疑応答も活発に行われた。さらに、発表終了後に、発表内容に関して引き続き議論が行われている状況も多々見られ、対面の大会でこそ創られる情報共有の「場」の重要性に、改めて気づかされた。なお、発表時には、オンラインで参加されている方に、発表者のパワーポイントの資料画面が適切に示されなかったりする問題もあり、発表者の方々、およびオンラインでご参加の方々にご迷惑をおかけすることとなった。来年度の大会に向けて改善を試みたい。

最後に、村田大学氏（大原大学院大学）に、昨年度の大会に引き続き今年度もオンライン関係でご協力いただき、竇少杰氏（立命館大学）には、前日の準備、当日のカメラ撮影などで大変お世話になりました。また、高田一樹氏（南山大学）にはパネルディスカッションの進行にご協力いただきました。皆様に深く御礼申し上げます。そして、研究発表大会実行委員ならびにアドバイザーの皆様、委員会メンバーのもとで学ぶ大学院生の皆様には、本大会開催に向けて、約 1 年間、並々ならぬご尽力をいただきました。誠にありがとうございました。

第２回水谷雅一賞審査結果について

水谷雅一賞実行委員長・理事　岡部　幸徳（帝京平成大学　教授）

第２回水谷雅一賞選考は、第１回の枠組みを踏襲して「論文・ジャーナル」及び「書籍」の２部門で実施した。委員による審査を経て第２回水谷雅一賞受賞者決定まで５ヶ月間を要した。なお、奨励賞は審査の結果、今回「優秀賞」に次いで高評価を得た候補に授与された。

発表大会における受賞式

＜論文・ジャーナル部門＞（敬称略）

優秀賞：杉本俊介「組織の徳倫理学」、学会誌 29 号

奨励賞：櫻井功男・青沼愛・林順一「ソーシャル・オーディットに関する一考察」、「サステナビリティ経営研究」第２号

＜書籍部門＞（敬称略）

優秀賞：井上泉（著）『企業不祥事とビジネス倫理－ESG、SDG s の基礎としてのビジネス倫理－』、文眞堂。

奨励賞：松田千恵子（著）『サステナブル経営とコーポレートガバナンスの進化』、日経 BP 社。

****

●＜優秀賞論文及び優秀賞書籍の講評（概要）＞

論文・ジャーナル部門：杉本俊介氏の「組織の徳倫理学」について

ビジネスにおける個人の「徳」の限界をもとに、組織の「徳」という新しい視点を提起し、組織不祥事を倫理的に評価する枠組みを提案している。この視点、枠組みはユニークかつ興味深く、新しい学術的視座を提供しうる。今後の経営倫理の研究の発展に貢献しうると評価する。

書籍部門：井上泉氏『企業不祥事とビジネス倫理』について

日本で起こった７つの企業不祥事について、公開資料にもとづき、問題の所在など、丁寧に解説し、個々の不祥事の内容を知るうえで貴重な資料となっており高く評価する。特に第Ⅰ編の「ビジネス倫理と人の仕組み」と、第Ⅲ編の「日本のコーポレートガバナンス」では関連する主要事項を網羅し、簡潔にまとめてある。企業不祥事を未然に防ぐための経営倫理教育のための重要な教材となろう。著者は実務家ながら永年にわたり、不祥事対策を研究しており一定の学術的水準のもとに実務界にも裨益する内容である。

第３回研究法ワークショップ開催報告

副会長　小方　信幸（法制大学　教授）

８月 27 日（土）に、第３回研究法ワークショップ（WS）を開催しました。 今年は、法政大学新一口坂校舎の教室と Zoom を連動した形式で開催しました。参加申込者は 70 名、当日の参加者は５４名で、出席率は 77.1%と比較的高い数字でした。当 WS は、当学会の企業勤務の会員の方の、論文の書き方を学びたいという要望に応える形で２年前にスタートしました。しかし、実際は、大学院生、大学教員の参加も多く、多様な参加者の WS となっております。また、当 WS は JABES, BERC, ACBEE の三位一体活動の一環と位置づけております。また、条件付きで非会員も参加可能としております。毎年、WS 後に入会する方がいます。今年も WS 後に２名の社会人の方から入会申込書を頂きました。

今回は、午前中に基礎編として「研究の全体像」と「研究倫」の WS を開催しました。午後は、「評価される論文」をテーマに３名の先生による座談会、討論者を立てた学会発表形式の研究発表、質的研究法の解説、事例研究の解説という４つの WS を行い、無事終了しました。関西大学の高野一彦先生をはじめ、ご登壇頂きました７名の先生方のご協力に深く感謝申し上げます。紙面の関係で７名のお名前を紹介できないことをお詫び申し上げます。来年も多くの方に参加いただける内容で、研究法 WS を開催したいと考えております。

日本経営倫理学会（JABES）・立命館アジア太平洋大学（APU）国際会議」開催告知

副会長・国際交流委員長　葉山彩蘭（淑徳大学経営学部　教授）

新型コロナウイルス（COVID-19)感染拡大によって、海外研究者や海外大学との交流活動がなかなか実施できない中、本学会は 2021 年 3 月 26 日に台湾・中国文化大学との 1 日国際カンファレンス（ハイブリッド方式）を開催しました。オンラインを通して、短時間ですが、台湾の教員、学生と企業の方との国際交流ができました。それに続き、本年 11 月 5 日に日本のスーパーグローバル大学である立命館アジア太平洋大学（APU）との共催で、「サステナビリティとビジネス」をテーマに 1 日の国際会議を開催することになりました。APU の全学生に占める国際学生の割合は約 50%であり、この多文化・多国籍のキャンパスで開催される国際カンファレンスにぜひ会員の皆さんに参加していただければと存じます。

●ワークショップ概要
日 時:11月 5 日(土)10:00～17:00
場 所:立命館アジア太平洋大学国際会議場（〒874-8577　大分県別府市十文字原1-1）

●プログラム(暫定)

午前の部

10:00～10:30 受付
10:30～10:50 開会 挨拶
11:00～12:00 研究報告（英語）
12:00～13:30 昼食・休憩時間

会費：5000 円

午後の部

13:30～14:30 ご講演（日本語講演、英語通訳）
矢野雄士様
大分銀行　地域創造部　地域活性化推進グループ
14:30～16:40 研究報告（英語）
16:40～17:00 閉会 挨拶
17:00～19:00 懇親会予定(任意参加)

国際会議の前日、11 月 4 日（金）には三和酒類（酒蔵工場）の工場見学を企画しております。あわせてぜひご参加ください。なお、本国際交流活動は対面で実施する予定です。詳細は後日の事務局からの配信情報をご確認ください。多くの会員の皆様の参加申し込みをお待ちしております。

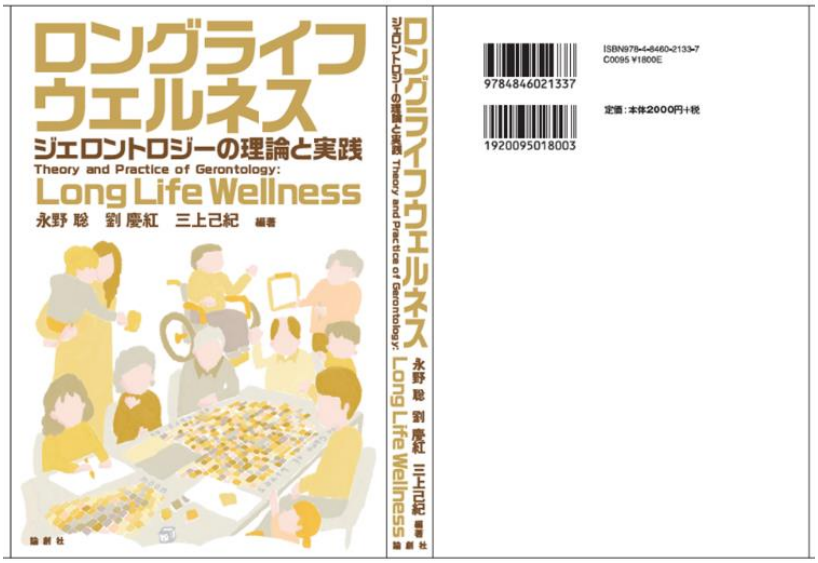
自著紹介

『ジェロントロジーの理論と実践：ロングライフウェルネス』*(Theory and Practice of Gerontology: Long Life Wellness)*

常任理事　劉　慶紅（立命館大学　教授）

ジェロントロジーは先を考える学問である。様々な世代に未来を考えてもらう「未来学」といっても過言ではないだろう。高齢者を取り巻く社会環境（家族、友人、企業、医療福祉、行政など）は多様性に富んでおり、本書では、こうした超高齢化時代の社会課題を理解し、解決の糸口を探るため、大学、行政、企業など様々なセクターを巻き込んだ、学際的かつ包括的な取り組みを紹介する。フランスの経済学者で思想家のジャック・アタリ氏は、「利他主義は最善の合理的利己主義」とインタビューで述べている。それに基づき、本書で捉えているジェロントロジーとは、「テクノロジー・ドリブン（技術駆動型）ではなく、ライフ・ドリブン（人生駆動型）」としていくこととし、ライフ中心でスキルから哲学・倫理まで広い範囲を網羅している。本書では、多様な分野・領域・世代の人々と共に、ジェロントロジーの未来を紐解いていくなど、今後の当該研究分野において参考となるものと考える。

筆者は特に、高齢者を取り巻く社会環境のうち教育サービスを提供する法人としての大学と高齢者の関係に着目し、超高齢化時代の高齢者教育という社会課題の解決を通じた大学による共通価値の創造に倫理の専門家として光を当てる。



【論創社，ISBN: 9784846021337，2022 年 3 月, 2000 円＋税】

「企業不祥事とビジネス倫理―*ESG*、*SDGs* の基礎としてのビジネス倫理―」

常任理事 井上 泉

いま世界的潮流となっている SDG s の根本理念は、他者への配慮。これを企業の言葉に置き換えると「ビジネス倫理」となる。本書では、7 つの企業不祥事例（①損保業界保険金支払漏れ、②中日本高速道路笹子トンネル天井板落下事故、③ベネッセ個人情報漏えい、④東洋ゴム免震ゴム検査データ偽装、⑤三菱自動車燃費データ不正、⑥商工中金融資不正、⑦かんぽ生命不適正契約募集）を詳細に分析し、「ビジネス倫理」の欠如がいかにサステナビリティ経営を阻害するかを訴える。

(本書目次)

まえがき
発刊によせて
序論
第Ⅰ編　ビジネス倫理と人と仕組み
第１章　ビジネス倫理
第２章　会社は誰のものか
第３章　企業不祥事の原因分析
第４章　権威に服従する個人
第５章　ビジネス倫理を保障する二正面アプローチ

第Ⅱ編　事例研究
事例研究１　回想：保険金支払い漏れ問題
（2005年２月）<保険商品多様化が引き起こした悲喜劇>
事例研究２　中日本高速道路笹子トンネル天井版落下事故
（2012年12月）<頑なに賠償責任を否定するも訴訟は完全敗北>
事例研究３　ベネッセ個人情報漏えい問題
（2014年７月）<子供の情報を軽視した罪と罰>
事例研究４　東洋ゴム免震ゴム検査データ偽装問題
（2015年２月）<不正を知って逡巡する経営陣>
事例研究５　三菱自動車燃費データ不正問題
（2016年４月）<「自社技術では達成できない」と言えない技術者たち>
事例研究６　商工中金融資不正事件
（2016年11月）<コンプライアンス担当部署が隠蔽工作>
事例研究７　かんぽ生命不適正契約募集問題
（2018年７月）<かんぽの常識は世間の非常識>

第Ⅲ編　日本のコーポレートガバナンス―現状と課題―
第１章　コーポレートガバナンス・コードと上場企業
第２章　機関設計の現状
第３章　社外取締役の現状
第４章　サステナビリティ経営の今後の課題

【文眞堂，ISBN: 978-4830951466，2021 年 12 月, 2,530 円（税込）】

2022 年度年次総会報告

常任理事　河口　洋徳

2022 年度年次総会は 2 年連続で ZOOM 総会となった。総会は、リアル参加者 44 名と委任状出席者 120 名の合計 164 名の出席を頂いた。（定足数 139 名）開会に当たって潜道会長より参集に対する謝意が述べられ開会した。進行役の総務担当より役員改選期ではないので議長を潜道会長にお願いしたいとの発言があり、参加者の拍手で潜道会長が議長に就任し議事進行を行った。当日の議題と審議概要は以下の通りであった。

議題１．２０２１年度学会活動状況報告の件
2021 年度学会活動状況について事前配布資料に基づき説明が行われ了承された。

議題２．２０２１年度学会決算報告の件
画面共有を使い決算報告が行われ了承された。

議題３．監査報告の件
監事を代表し中谷監事より監査報告書に基づき監査結果の報告が行われ了承された。

議題４．２０２２年度学会活動計画（案）審議の件
資料の共有が行われ、2022 年度の活動計画の概要が説明され、古谷理事より研究交流例会について、狩俣理事より関西地区研究部会について、高野常任理事より『サステナビリティ経営研究』第 2 号の発刊について、葉山副会長より「APU・日本経営倫理学会交流シンポジウム」開催について、今井常任理事より「学会創設 30 周年記念経営倫理シンポジウム」開催について、それぞれ追加説明が行われ、審議の結果承認された。

議題５.２０２２年度学会予算（案）審議の件
2022 年度の予算案及び特別会計からの 30 周年記念事業への支出予定について説明がなされ、審議の結果承認された。

議題６.会則改定の件
会則改定の件について説明がなされ、審議の結果承認された。

議題７．論文投稿規定改定の件（報告事項）
学会誌に関しては村山常任理事、サステナビリティ経営研究に関しては高野常任理事より、論文投稿規定改定の件について説明が行われた。

議題８．その他
総務担当理事より、今後の学会の運営に関して、新たに業務委託先への業務委託の概要の説明報告が行われた。

潜道議長より予定されていた議事はすべて終了したことが宣せられ、他に議論すべき内容が無いか確認が行われた後、総会出席への謝意が表され閉会した。

理事会議事録（要旨）

«第 181 回理事会»

日時：2022 年 4 月 23 日（土）10:00～12:10
場所：ZOOM 会議室
（審議事項）
議題 1．新入退会者承認の件
議題 2．第 30 回研究発表大会の件
議題 3．2022 年度（第 30 回）総会議案の件
（報告事項）
議題 1．2022 年度「研究法ワークショップ」開催の件
議題 2．学会賞の件
議題 3．サステナビリティ経営研究第 2 号発行の件
議題 4．Call for Paper の件
議題 5．国際交流事業の件
議題 6．広報委員会報告の件
（その他）
議題 1．30 周年記念事業に関するショートレポート
議題 2．学会へのアンケート依頼に関して
議題 3．その他(第 30 回研究発表大会の参加品ついて)
議題 4．理事会/研究交流例会等の開催日程再確認

«第 182 回理事会»

日時：2022 年 6 月 25 日（土）14:0 0 ～15:40
場所：ZOOM 会議室
開催：ZOOM によるオンライン開催
（審議事項）

議題１．新入退会者承認の件

（報告事項）

議題１．第３０回研究発表大会の件

議題２．２０２２年度「研究法ワークショップ」開催の件

議題３．学会賞の件

議題４．サステナビリティ経営研究第２号発行の件

議題５．論文執筆要領等

議題６．国際交流事業の件

議題７．広報委員会報告の件

（その他）

議題１．３０周年記念事業に関するショートレポート

議題２．学会へのアンケート依頼に関して

議題３．新会員管理の仕組と会員向け情報発信について

議題４．総会成立状況等の報告

議題５．理事会/研究交流例会等の開催日程再確認

2022年度年会費納入のお願い

年次総会で決議されました通り、学会諸活動を推進する財源である年会費の納入をお願いいたします。

◇年会費：正会員・1万円　学生・5千円　法人(上場)・5万円　法人(非上場)・3万円

◇年会費支払いの確認は事務局まで、お問合わせください。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切り換えをお願いいたします。

学会報誌面充実にかかる原稿募集のご案内

1）会員によって執筆された単行本の自著紹介

2）海外研修・留学報告

3）他学会・国際会議等参加報告

4）日本経済学会連合の補助事業募集などの案内

年約３回（7、11、2 月頃予定）の発行スケジュールに合わせ、随時、上記のテーマでの投稿を受付けています。一つのトピックにつき 800 字程度以内で当学会事務局までお送りください。写真（画像データ）を添付いただいても結構です。なお誌面全体の割り付けの関係で、適宜、投稿内容を編集させていただくことをご了承ください。発行時期との関係で、学会 HP でのご案内のみとなる場合がございます。誌面充実のため、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

メールアドレスご登録のお願い

当学会事務局では今後、会員の皆様への周知事項は JABES ウェブサイトへの掲載及び、電子メールによる配信を中心に行ってまいります。メールアドレスを未登録の方は事務局（jabes@asas-mail.jp）までご連絡ください。皆様のご理解ご協力のほど、お願いいたします。（JABES ホームページ右上のマイページからご自身で修正登録もできます・・ID　パスワード使用）

＊学会誌の配布、その他限られたもの以外、原則郵送はいたしません。

＊現在、郵送しております会員でメールアドレスを登録されている方へは順次電子メールでの配信に切り替えさせていただきます。

＊メール受信許可設定のお願い

迷惑メール対策などでドメイン指定を行っている場合、メールが受信できない場合がございます。事務局及び総務担当(info@jabes1993.org)からの受信設定をお願いいたします。

【学会連絡先：東京事務局】
住所：〒112-0012
東京都文京区大塚 5-3-13
一般社団法人 学会支援機構内
E-mail：jabes@asas-mail.jp
担当：高浦常任理事（会報）
河口常任理事（総務）
発行：日本経営倫理学会

編集後記:No 86 第 1 号では、多くの先生方にご寄稿賜り誠にありがとうございました。心より御礼申しあげます。
また、編集作業が諸般事情により長期にわたり発行が遅くなりましたことお詫び申し上げます。今後も、より良い学会報を皆様にお届けいたしたく存じます。皆様のご寄稿・ご提案心よりお待ち申し上げます。(編集担当 / 常任理事 平野)